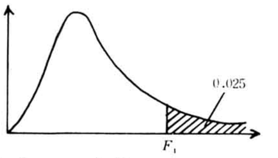
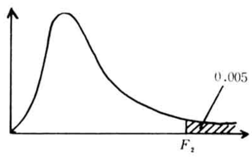
が両側合わせて0.05の上側棄却域の境界値がF_1 であることを示し，下右図の場合は，危険率が両側合わせて0.01の上側棄却域の境界値がF_2 であることを





示しています。つまり，

○　危険率が両側合わせて0.05（5％）のときは，F分布表の上側確率0.025（2.5％）の境界値（％点）を，

○　危険率が両側合わせて0.01（1％）のときは，F分布表の上側確率0.005（0.5％）の境界値（％点）を

求めることになりますから注意してください。

Fの値が，0に近い場合，下側確率の値 $\frac{\alpha}{2}$とそのときの下側境界値は，表にはでておりません。この場合，（定理3）は，$n_1S_1^2/(n_1-1)$，$n_2S_2^2/(n_2-1)$の，どちらを分子、分母にとってもFの値は，F分布に従うことを教えているわけですから，まず,$n_1s_1^2/(n_1-1)$, $n_2s_2^2/(n_2-1)$ の値を計算しておき，その結果大きい方を分子に，小さい方を分母にとって，Fの値を1より大きくして、F分布表を用いて検定します。

以下，この検定の手順をまとめます。

〔5〕　等分散の検定　　母集団がともに正規分布

1．仮説H_0: $\sigma_1^2=\sigma_2^2$ を立てる
対立仮説H_1: $\sigma_1^2 \neq \sigma_2^2$

2．$n_1s_2^2/(n_1-1)$，
$n_2s_2^2/(n_2-1)$
の値を計算し，大きい方を分子，小さい方を分母にしてFの値を求める。

$$F=\frac{\dfrac{n_1s_1^2}{(n_1-1)}}{\dfrac{n_2s_2^2}{(n_2-1)}}$$

であったとする。(p 121 参照)

3．危険率をαとし，F分布表より$F(n_1-1,\ n_2-1,\ \alpha)$の値を求める。